里山ぐらし今むかし

いちばんの楽しみだった村祭り。若者は祭りをはしごしたものです。

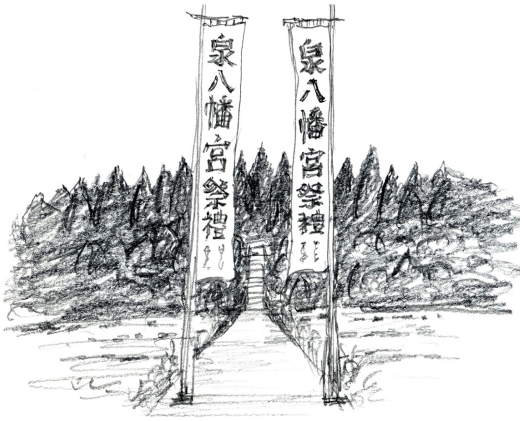
吉川では集落ごとに氏神様が祀られていて、春祭りと秋祭りが行われてきました。うち（泉集落）の神社は泉八幡宮。小さいおやしろですが、美しい造りです。百十年前、土地の大地主が、地元の大工に伊勢神宮を見学させてから建てたものだそうです。

泉八幡宮の祭礼日は四月二一日と八月二一日と決まっていました。しかし、「その由来は？」と訊ねられたときは、どう答えたものかと迷いました。おそらく、由来はありません。神主さんの都合で決めたのではないでしょうか。

何しろ、隣町に住んでいる神主さんは、五十カ所ぐらいの神社の宮司を兼ねています。それぞれが重ならないように、昔から祭りの日を決めていたのでしょう。だから早い集落は八月初めに、遅いところは十一月に秋祭りを行っています。

踊りが立った秋祭り

祭りがもっとも盛んだったのは、昭和二十～三十年ごろでした。子供だった私は、ずいぶんわくわくしたものです。いや、子供だけでなく村中の人にとって、祭りの日は晴れがましい、特別な一日でした。



賑やかな音が鎮守の森から響いてくると、居ても立ってもいられません。親に十円の小遣いをねだると、神社の広場に出ている店に一目散。くじを引き、駄菓子を買ったものです。

秋祭りには、踊りがつきものでした。盆踊りのように、輪になって踊るのがならわしです。あちらこちらの集落からも人が集まり、踊りの輪は二重三重になりました。参加者は二百人はいたのではないでしょうか。熱気があってとても賑やかでした。

昔は「十三夜」という吉川独特の民謡を歌い踊りました。集落ごとに節回しや太鼓の打ち方が微妙に異なり、「泉（集落）流はこれ」「赤沢（集落）流はこれだ」と言っていた。

やがて、青年部がどこからか、小さなスピーカーやレコードを手に入れたのでしょう。炭坑節のような全国的に有名な曲も踊るようになりました。

そういえば私が青年部の一員になった頃は、フォークダンスも取り入れていました。今、思い浮かべると、奇妙な光景ですね。神社の前で老若男女が手をつなぎ、「オクラホマミキサー」を踊っているなんて……。でも、あの頃は、何の違和感もなかったなあ。青年部としては、村人を楽しませることが使命でした。

祭りのはしご

祭りの「はしご」は当たり前でした。同じ年頃の仲間と徒党を組んで、昨日は隣の集落の祭りに出かけ、明日は、遠方まで足を伸ばすというふうです。多いときには、十五集落ぐらいの祭りに参加したでしょうか。

はじめはどこへ行くにも徒歩でした。二時間歩き通すことが苦にならないほど、祭りは楽しみだったわけです。やがて、はしごの足は、自転車に変わり、それからバイクになりました。

祭りは男女の出会いの場でもあったから、そこで出会って結婚したという人もいます。

氏神様に豊作祈念

もちろん、喧嘩はつきもの。よその祭りに参加する時は、酒を一本たずさえて、村のリーダーへの挨拶は欠かせません。それでも血気盛んだから「よそもんが生意気だ」などと、喧嘩になる。しかし、一発、ぽかんとやって終わり。あっさりしたものでした。

人がまばらになり、祭りから踊りが消えたのは、昭和四十五年ぐらいでした。その頃には、村にテレビが普及して、祭りが唯一の楽しみだった時代ではなくなりました。私たちが、氏神様の前で、輪になって踊りを楽しんだ最後の世代でしょう。

残念ながら賑やかな村祭りの光景は、もう見られません。でも祭りはちゃんと続けています。

神様を迎えるために神社を掃除し、祭り当日は集落のみなが顔をそろえて、神主さんとともに拝礼します。その後は、御神酒を一杯。

静かな祭りですが、祈念する内容は今も昔も変わりません。

災害がなく、豊作であること…。今年も間もなく秋祭りの日がやってきます。

【文・中嶋巌】

文明人が見失っていた、おいしさと栄養価。
健菜倶楽部
http://kensai.co.jp/

発行／株式会社健菜　〒151-0061 東京都渋谷区初台 1-47-1
小田急西新宿ビル　TEL 0120-201-371
編集／永田米研究会　新潟県上越市吉川区

よしかわ便り

たなだ

No.15
8
2016

稲の花

つつましく、可憐に

8月、稲は花を開く。
籾が開いて、可憐な白いおしべを伸ばしていく。
開花はわずか2～3時間。そして稲は実を結ぶ。

今月の健菜米づくり

八月五日から稲の花が咲き始め、一週間ほどはあちらこちらで白い花が見られました。順調にいくと二十日ごろには、籾に実が詰まり、穂がこうべを垂れ始めるでしょう。

その時期になると、カメムシが一斉に田んぼに現れます。農薬を使わずに害を防ぐには、今のうちから、カメムシの住処になる畦や土手の雑草を一掃しておくしかありません。炎天下、みな、真っ黒に日焼けしながら、草刈りに追われています。

毎日、日中はカッと暑いのですが、夜は涼しくて、稲が喜ぶ天候が続いています。雨にも日照にも恵まれてきたおかげで、どうやら豊作になりそうです。